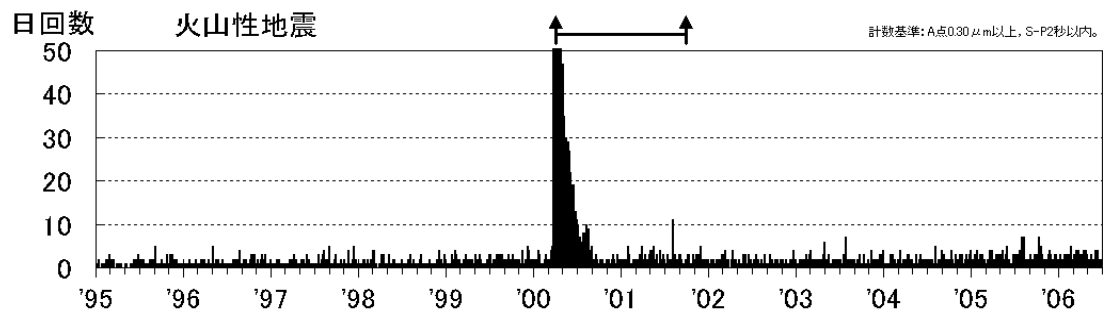
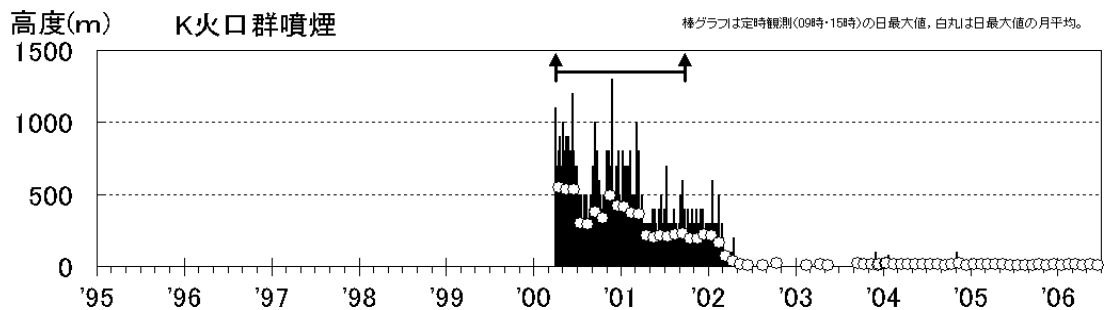
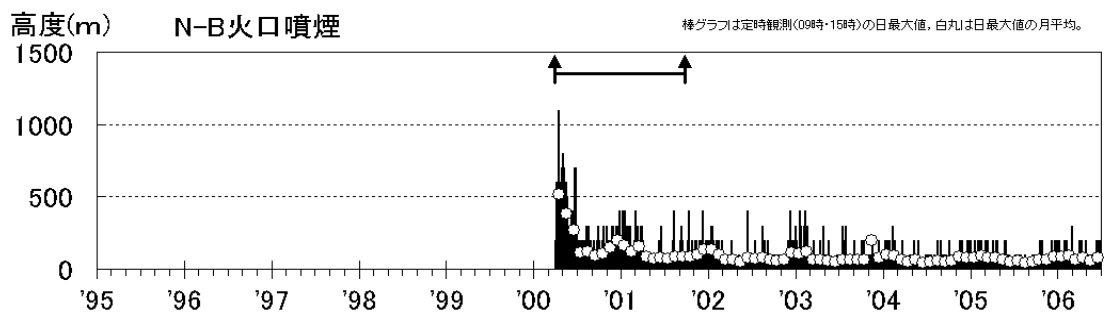
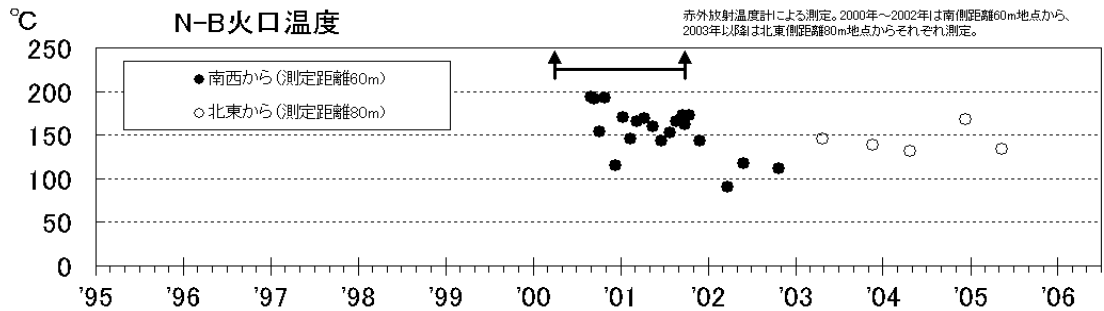


有珠山

1 概況

火山活動は静穏な状態です。



最近の火山活動経過図 (1995 年 1 月 1 日～2006 年 6 月 30 日)

↑印で挟まれた期間は 2000 年噴火活動期

本資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図 50m メッシュ (標高)』を使用しています。(承認番号 平 17 総使、第 503 号)

2 噴煙および火口の状況

西山西麓（N）火口群の N-B 火口では、弱い噴気活動が続いており、噴気の高さは火口縁上おおむね 100m 以下で推移しました。金比羅山（K）火口群では、時折ごく弱い噴気が観測されました。その他、山頂火口原や昭和新山でも弱い噴気活動が続いていますが、これまでと比べて特段の変化は認められません。

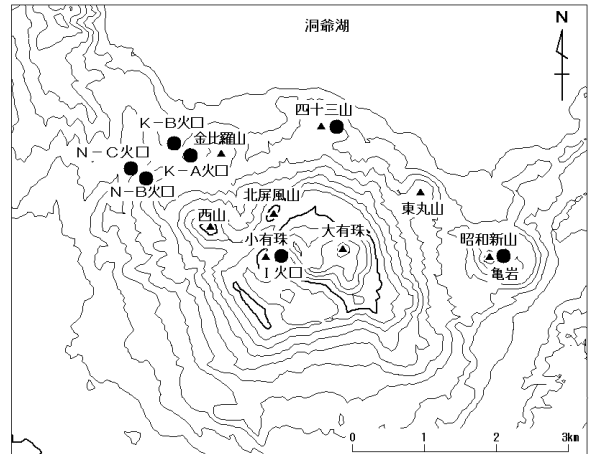
30 日に北海道開発局の協力を得て上空からの観測を実施しました。西山西麓火口群および山頂火口原の噴気の状態にこれまでと比べて特段の変化はありませんでした。

赤外熱映像装置*による観測では、各火口の温度分布に変化は見られませんでした。

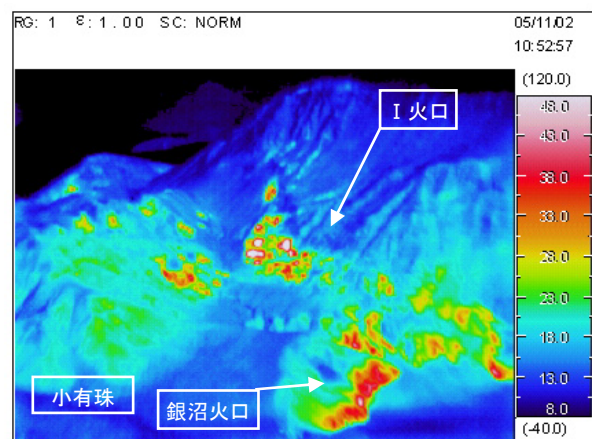
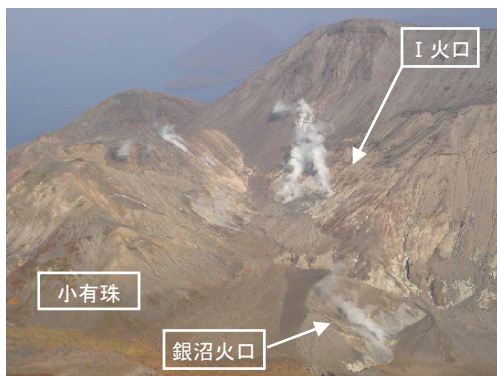
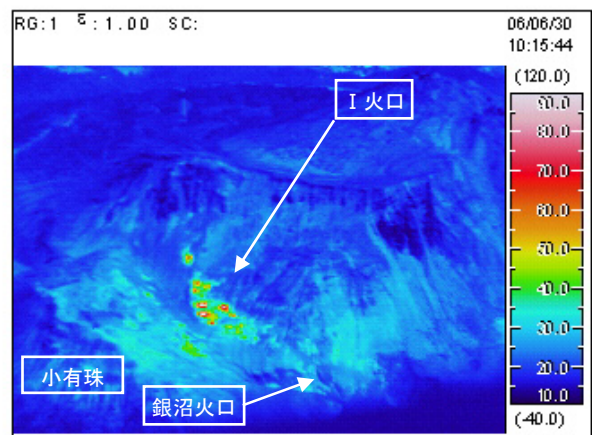
*赤外熱映像装置は、物体が放射する赤外線を検知して温度や温度分布を測定する計器です。熱源から離れた場所から測定できる利点がありますが、熱源から離れるほど測定される温度は実際の温度よりも低い値になってしまいます。また、噴煙や霧で測定対象が見えにくい場合には温度測定ができないこともあります。

【山頂火口原】

I 火口、小有珠南東麓の噴気孔および銀沼火口西壁の変色域から白色の噴気が 10～30m 程度上がっていました。これまでの状況と比較して、特に変化は認められませんでした。



有珠山山頂周辺図



赤外熱映像観測装置による山頂火口原の表面温度分布

上：西側上空から撮影（2006 年 6 月 30 日 10 時 15 分撮影）

下：南西側上空から撮影（2005 年 11 月 2 日 10 時 52 分撮影）

【西山西麓火口群】

N-B 火口では、火口底辺縁部から白色の噴気を噴出していました。噴出の勢いは弱く、これまでの状況と比べ、特に変化は認められませんでした。

【金比羅山火口群】

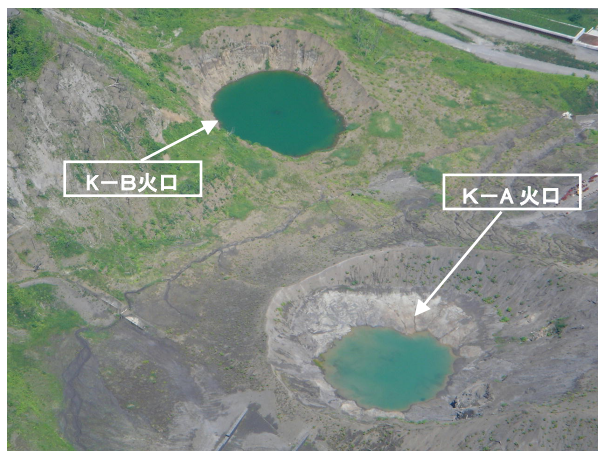
K-A、K-B および K-11 火口で噴気は認められず、周辺の状況もこれまでと比べ特に変化は認められませんでした。

【昭和新山】

溶岩ドームの数箇所から、ごく弱い白色の噴気が見られました。



西側上空から撮影したN-B火口周辺(左:2006年6月30日 右:2005年11月2日)



南東側上空から見た K-A、K-B 火口周辺
(2006年6月30日撮影)



西側から撮影した昭和新山
(2006年6月30日撮影)

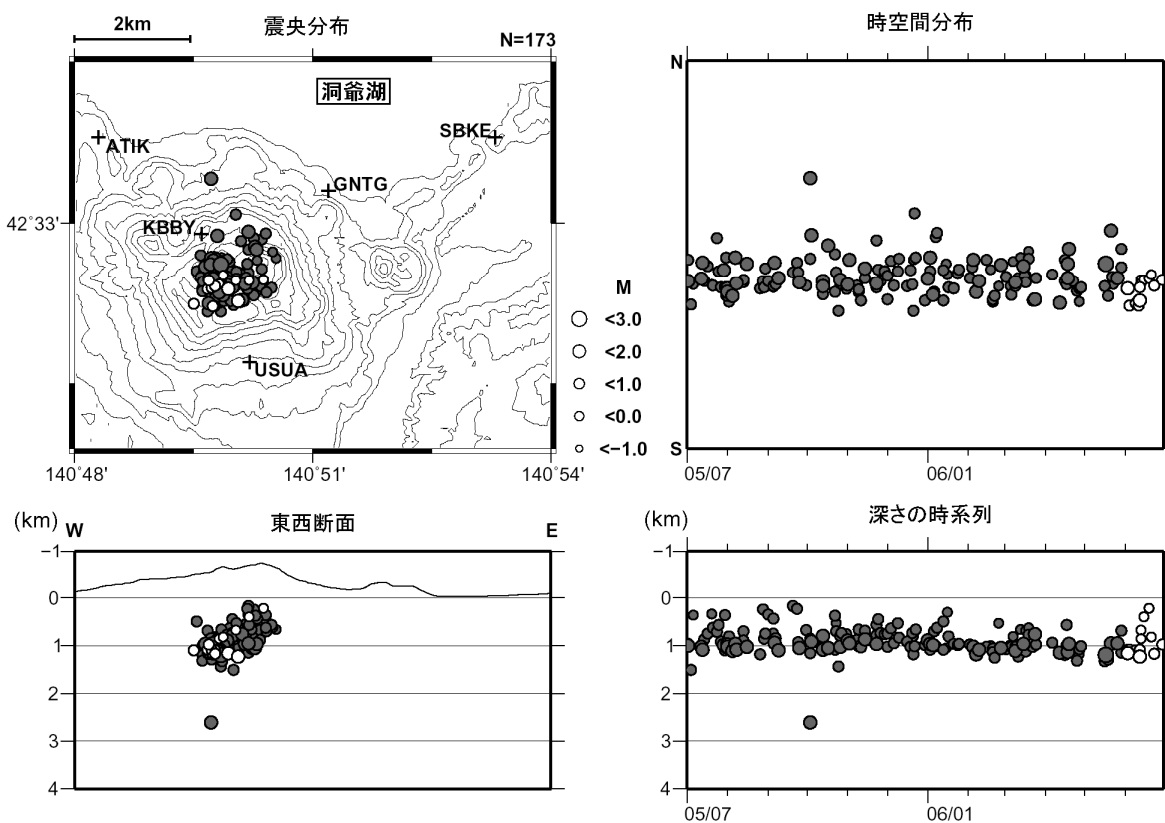
3 地震および微動の発生状況

火山性地震は 1 日あたり 0~4 回と少ない状態で経過しました。震源はこれまでと同様に山頂部直下の浅い所 (山頂から深さ約 1.5km 前後) に集中していました。

火山性微動は観測されませんでした。

地震・微動の月回数 (A 点)

2005~2006 年	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
地震回数	44	37	29	35	29	33	26	34	40	35	29	32
微動回数	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0



有珠山の震源分布図 (丸印: 震源 +印: 地震観測点)

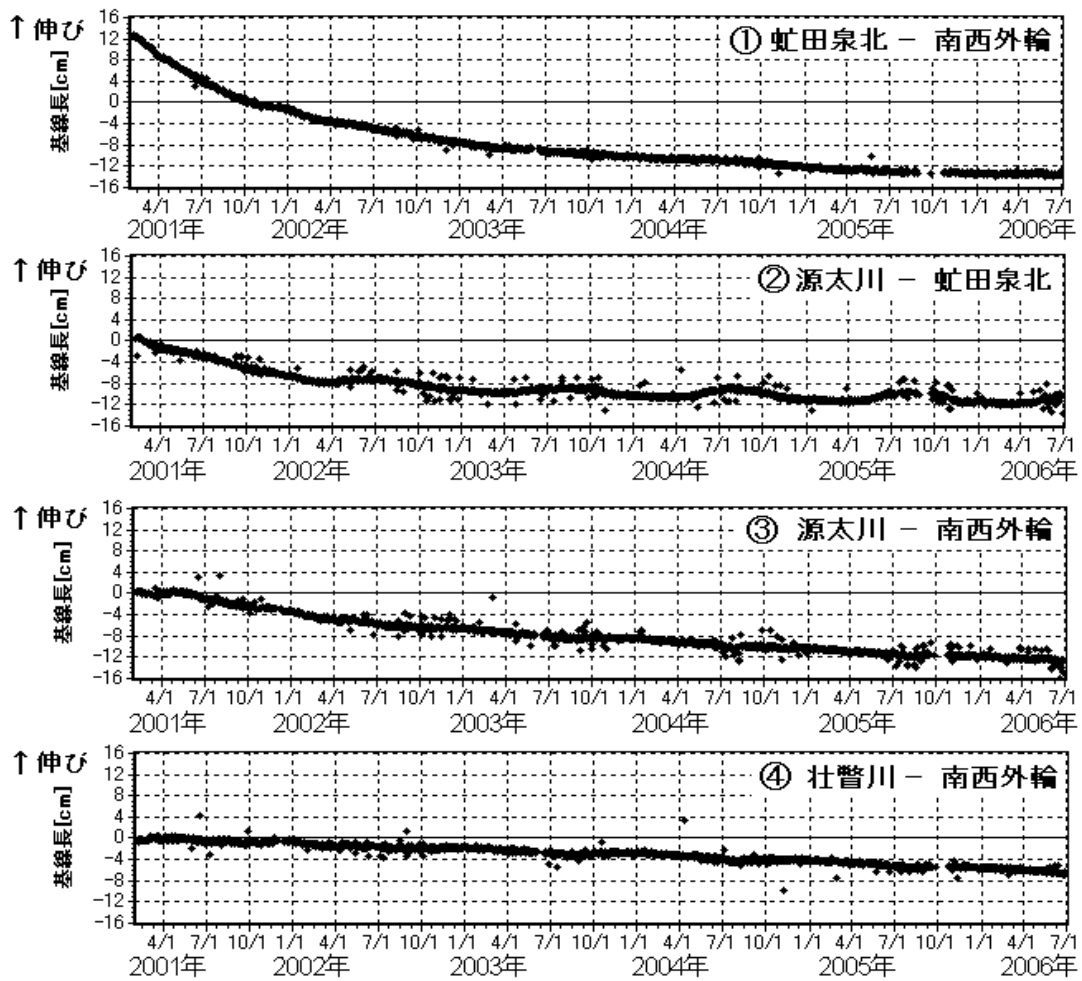
○印は今期間(2006 年 6 月)に求まった震源を示しています。

●印は前期間までの 11 ヶ月間(2005 年 6 月~2006 年 5 月)に求まった震源を示しています。

震源は山頂部直下の浅い所 (山頂から深さ約 1.5km 前後) に集中しており、今期間に求まった震源もこの領域内に分布しています。

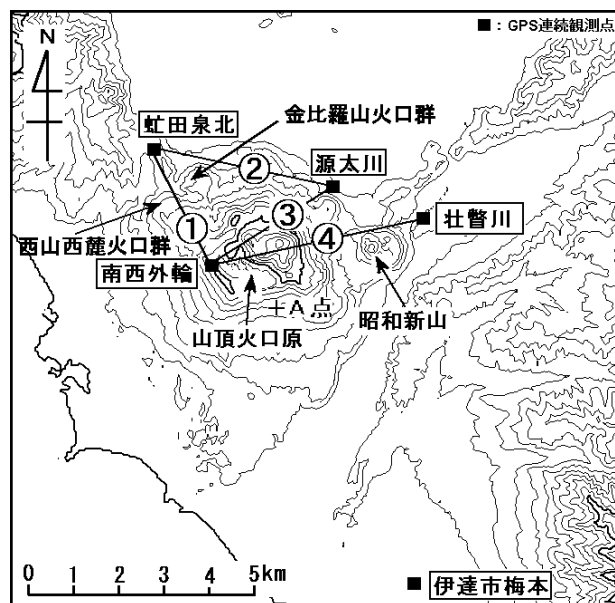
4 地殻変動の状況

GPS 連続観測では、火山活動の高まりを示すような変動は認められません。



基線長変化 (2001 年 2 月 9 日～2006 年 6 月 30 日)

基線長変化グラフの空白部分は欠測



GPS 観測点配置図